

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

東京都小学校社会科研究会

平成23～27年度研究主題

よりよい社会の形成に参画する
資質や能力の基礎を培う社会科教育
～自ら調べ・考え・表現しながら
社会認識を深める学習を通して～

調査研究部会 8月作成

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

平成25年度第51回全国大会の研究成果を継承する

①**社会の形成者としての
資質・能力の育成**
社会の形成者としての**資質
や能力**を目指す具体的な
児童像を設定し、実践研
究を積み上げてきた。

②**「ふかめる」段階を
位置付けた学習過程**
学習過程に「**ふかめる**」段
階を位置づけ、社会認識を
深めたり参画意識を高めた
りする学習を設定した。

③**「知識の構造図」によ
る指導内容の明確化**
社会認識を確かに育成する
ために「**知識の構造図**」を
作成して実践研究を積み上
げてきた。

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

平成25年度第51回全国大会の研究成果を継承する

①**社会の形成者としての資質・能力の育成**
社会の形成者としての資質や能力を目指す具体的な児童像を設定し、実践研究を積み上げてきた。

研究主題に、よりよい社会を形成する目指す子供像とともに、副主題に社会を具体的に示すと科の授業づくりの重点を示す。

②**「ふかめる」段階を位置付けた学習過程**
学習過程に「ふかめる」段階を位置づけ、社会認識を深めたり参画意識を高めたりする学習を設定した。

内容の取扱いに対応して、学習過程に、社会の発展を考えたり、自分の関わり方を選択・判断したりする学習段階を設定する。

③**「知識の構造図」による指導内容の明確化**
社会認識を確かに育成するために「知識の構造図」を作成して実践研究を積み上げてきた。

学習指導要領に即して教材の構造と見方・考え方を働かせて追究する問いの構成を明確にした単元構想を立てる。

令和5年度全国大会に向けた研究主題の設定と研究内容の構想

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

東京都小学校社会科研究会

令和2年度からの研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習を通して～

社会科学習で育てたい子供とは？

知識・技能

思考力・判断力・表現力



社会をよく見て、
様子や仕組みが
分かる子

問い
を
もち

くらべたりつなげ
たりして特色や
意味を考える子



社会の出来事を自分とつなげ、
よりよい社会づくりに
関わっていこうとする子

学びに向かう力・人間性



社会科学習で育てたい子供とは？

- ◆社会をよく見て、様子や仕組みが分かる子
- ◆くらべたりつなげたりして特色や意味を考える子
- ◆問いをもち社会の出来事を自分とつなげ、よりよい社会づくりに関わっていかようとする子



希望
自覚



子供

未来を創る

分かる・考える



つながる

問い・関わり



未来
発展

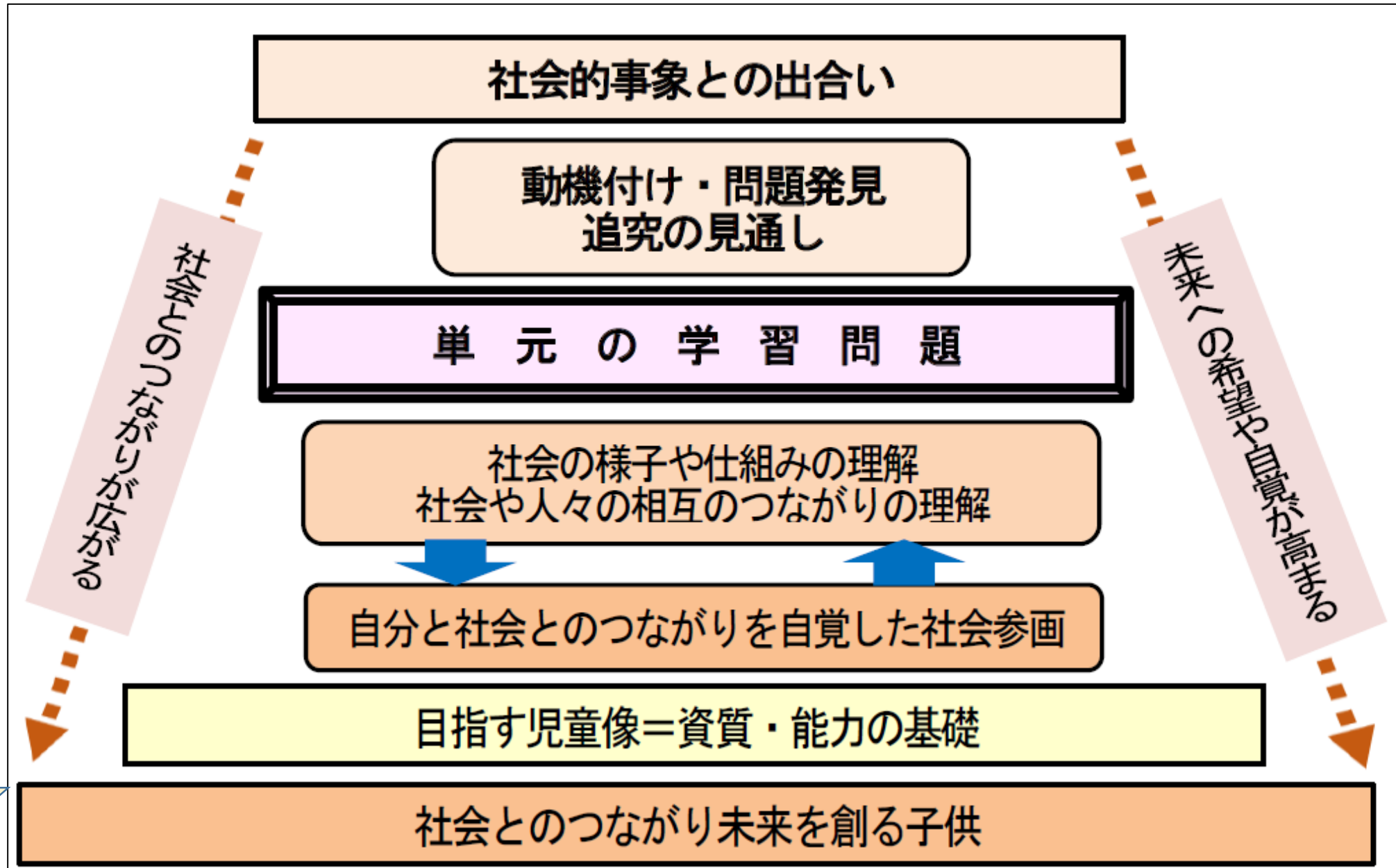


社会

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

問題解決的な学習

主体的・対話的で深い学び



社会とのつながり未来を創る子供

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習をつくる研究の重点は？

教材開発・教材分析・単元構想

- 問題意識や追究意欲が高まる教材
- 社会とのつながりを実感できる教材
- 東京らしい教材
- 見方・考え方を働かせる教材
- 人の働きを共感的に捉えられる教材

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習をつくる研究の重点は？

教材開発・教材分析・単元構想

- 問題意識や追究意欲が高まる教材
- 社会とのつながりを実感できる教材
- 東京らしい教材
- 見方・考え方を働かせる教材
- 人の働きを共感的に捉えられる教材

学習指導要領解説に基づき、
◆知識 ◆見方・考え方
◆資料 ◆問い から
教材を分析し
単元を構想する。

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

学習指導要領解説社会科編の記述内容の構造

学びのプロセス

問い①

見方①

資料 a 資料 b

調べる事項ア

問い②

見方②

資料 c 資料 d

調べる事項イ

問い③

見方③

資料 e

調べる事項ウ

基于

比較・分類・関連付け
・総合して考え

単元の理解事項

選択・判断

学んだことを活用して

単元の目標の実現（深い学びの実現）

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

学習過程	問 い		見方・考え方		資料・活動	獲得する知識
つかむ	学習問題をつかむための問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	単元の学習問題 「○○○○○○○○○○○○○○○○○○」					
しらべる	調べるための問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	調べるための問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	調べるための問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
まとめる	特色や意味を考えるための問い	←	考える方法	→	活 動	単元の理解事項
(つながる)	(発展を考えるための問い) (関わり方を考えるための問い)	←	着目する視点 考える方法	→	活 動	社会的態度

単元を通して育成したい「社会とつながり未来を創る子供」の姿

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習をつくる研究の重点は？

研究の重点内容・指導の手だて

- ① 主体的に問いを追究する工夫
- ② 見方・考え方を働かせる学習活動の工夫
- ③ 子供の学びを確かにする評価の工夫



令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究の重点内容

■ 追究意欲が高まる ■ 見方・考え方を働かせる教材 ■ 東京らしい教材
■ 人の働きを共感的に捉えられる教材 ■ 関わり方を考える教材

① 主体的に問いを追究する工夫

○ 問いが生まれる出合い ○ 学習問題と予想 ○ 問いの連続や構成

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究の重点内容

■ 追究意欲が高まる ■ 見方・考え方を働かせる教材 ■ 東京らしい教材
■ 人の働きを共感的に捉えられる教材 ■ 関わり方を考える教材

① 主体的に問いを追究する工夫

○ 問いが生まれる出合い ○ 学習問題と予想 ○ 問いの連続や構成

② 見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

○ 視点に着目して調べる ○ 比較・分類・関連付けて考える ○ 選択・判断する

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究の重点内容

■ 追究意欲が高まる ■ 見方・考え方を働かせる教材 ■ 東京らしい教材
■ 人の働きを共感的に捉えられる教材 ■ 関わり方を考える教材

① 主体的に問いを追究する工夫

○ 問いが生まれる出合い ○ 学習問題と予想 ○ 問いの連続や構成

② 見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

○ 視点に着目して調べる ○ 比較・分類・関連付けて考える ○ 選択・判断する

③ 子供の学びを確かにする評価の工夫

○ 3観点による評価 ○ 指導に生かす評価 ○ 児童が学びに生かす評価

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

社会的事象の見方・考え方を働かせ、
主体的に問いを追究する学習をつくる研究の重点は？

研究の重点内容・指導の手だて

① 主体的に問いを追究する工夫

② 見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

③ 子供の学びを確かにする評価の工夫

- ・単元指導計画の作成
- ・評価計画の作成
- ・授業場面での具体的な手立て

学習指導案の単元の構想図例

5 単元構想(例)

【本小単元につながる児童の学習経験】

前小単元では食糧がどこから届くのか、食糧の種類や分布に着目して様々な食糧の産地調べを行っている。その中で、気候条件により米だけでなく野菜や果物などの食糧の産地が大きく変わることや輸入品にも日本の食糧の安定供給が支えられていることを理解している。本小単元では、米作りにおいても、気候などの自然条件が大きく影響することから、食糧の産地の自然条件に着目する学習から導入していきたいと考える。

【研究内容1】 主体的に問いを追究する工夫

【問題意識を高める工夫】

- 山形産の米を食べていることから庄内米に関心を向け、生産量だけでなく食味ランキング特A米の種類の多さから問題意識を高める。
- 具体的な米作り農家を登場させることで農家が直面する課題や生産の努力や工夫に共感しながら追究できるようにする。

【見通しをもつ工夫】

- 学習問題の解決に向けて予想したことを生産の工程を調べて、練り直して学習計画を立て、より見通し確かな追究の見通しがもてるようにする。

【内容や方法を選択できる工夫】

- 教科書以外にも、資料を持参したり、タブレットPCのデジタル教科書を活用したり、インターネット検索して情報を集めたりなど調べ方を選択できるようにする。
- 学習形態も個人、ペア、グループなど選択できるようにする。
- 情報整理の仕方とも思考ツールなど個々で選択できるようにする。

【学びを振り返る工夫】

- 様々な方法で調べることについて、毎時間整理して、学習を振り返る時間を設定する。

【協働的に取り組む工夫】

- 様々な資料や方法で調べたことについて、友達と共有する時間を設け、調べたことの妥当性を確認しながら学習を進める。
- 農家の課題解決と発展を自分事として考えられるようなテーマ設定を工夫する。

【研究内容3】 子供の学びを確かにする評価の工夫

指導と評価の一体化を図る(教師が指導に生かす)評価
関係図を用いてまとめた農家と関係する人々の相互関係の学習前と学習後の2回作成して比較することで、米が、多くの人の工夫や努力によって生産されていることへの理解の変容を確かめられるようにする。

子供の主体的な問題解決の側面から

過程	想定される「問い」	子供に働かせたい見方・考え方
つかむ	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野はどのようなところなのだろう。	← 自然条件に着目して →
	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野ではどうして米づくりがさかんなのだろう。	← 米作りの工夫や努力に着目して →
学習問題	庄内平野で米づくりにかかわる人々は、どのように	
しらべる	<しらべる問い> 農家の人々はどのような手順で米生産しているのだろうか。	← 生産の工程に着目して →
	<しらべる問い> たくさんの米を効率よく生産するためにどのような工夫をしているのだろうか。	← 技術の向上に着目して →
	<しらべる問い> 農家の人々をだれがどのように支えているのだろうか。	← 協力関係に着目して →
	<しらべる問い> 産された米はどのようにして私たちのものに届けられるのだろうか。	← 輸送に着目して →
まとめる	<特色や意味を考える問い> なぜ、庄内平野では、品質の良い米をたくさん生産し、販売することができるのだろうか。	← 工夫や努力と自然環境や消費者のニーズを関連付けて →
つながる	<社会に見られる課題をつかむ問い> 日本の米づくりにはどのような課題があるのだろうか。	← 持続可能性に着目して →
	<発展や視わり方考える問い> 私たちはこれからも安全でおいしい米を食べ続けることができるのか。	← 生産者と消費者の立場を関連付けて考えて →

【本小単元で目指す子供像】

私はこれからも安全でおいしい米を食べ続けることができると思う。なぜなら、庄内平野の農家の人やJAの人たちは共同経営やスマート農業など農家の高齢化の課題を解決しようとしているし、雪若丸という新しい米の品種を開発し、消費者がニーズと農家の育てやすさの両方を実現していて、新しく農業に就く人も増えているからです。私たち消費者がもっと日本の国産のお米にもっと関心をもって食べていけば、きっと安全でおいしい米を食べ続けられると思います。JAの人の話を聞いてそうなってほしいと強く思いました。

社会生活の確かな理解の側面から

見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
・庄内平野の航空写真 ・土地利用図と雨温図	庄内平野は、水田に適した平地が広がり、雪解けの河の水も豊かで、夏の日照時間も長く、米作りに適している。
・米の食味ランキング ・都道府県別米生産量 ・庄内米の出荷先地図	山形県の米の生産量は国内有数であるばかりでなく、庄内平野では、毎年食味ランキングでA評価になるなどことからおいしいお米が作られている。

して、よりよい米を生産しているのだろうか。

・農作ごよみ ・作業の様子の写真 ・農家の話	庄内平野では、農家が、気候を生かしながら四季に応じた作業を行い、品質を高める工夫や努力、環境や安全への配慮を行って米を生産し、出荷している。
・用水路と排水路と耕地整理の写真 ・今と昔の労働時間 ・農家の話	庄内平野では、農地の整備や農業機械の使用により効率よい生産や品種改良による消費者のニーズや生産性を意識した米作りの技術開発が行われている。
・水田農家や集落の取組 ・農家協同組合の取組 ・農家の話	庄内平野では、農業組合や集落営、農業者試験場など農家を支える仕組みや協力関係の上で米作りが行われている。
・カントリーエレベーター ・米の輸送地図 ・米づくり費用	米はカントリーエレベーターで保存され、生産地から消費地まで交通網を通して輸送され、価格には様々な費用が含まれて販売されている。

米づくりに関わる人々は、自然条件や高い技術を生かし、生産性や品質を高めるよう努力したり、輸送方法や販売方法を工夫して良質な米を生産して消費地に届けたりするなど、食料生産を支えている

・日本人の米の消費量 ・農業従事者数と平均年齢の推移 ・耕作放棄地の推移	日本では米の消費量が減り、兼従事者数が減少して高齢化が進み、耕作放棄地も増えているが、農業法人を作って農作業を共同化したり、スマート農業を進めたり、有機栽培に取り組むなどの工夫や努力をしている。
・JA庄内みどりの方のオンライン動画	JA山形でも、消費者のニーズに応え新しい取組を工夫して行い、消費者との関係を大切にして米づくりを続けていこうとしている。

【研究内容2】

社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

【位置や空間的な広がりから見る】

- 米の生産地の土地や気候、輸送手段について着目できるように、地図や雨温図、写真資料、地図などで米づくりに必要な条件について調べる活動を行う。

【事象や人々の相互関係から見る】

- 山形県の米作りが盛んな理由＝工夫や努力に着目できるように、食味ランキングや生産量から多さを資料で調べる活動を行う。
- 米づくりに関わる人々の協力関係に着目できるように、関係を図に整理して相互関係が見える化する活動を行う。

【時期や時間の経過から見る】

- 技術の向上に着目できるように、昔と今の農作業の様子や時間を比較できる資料から効率よく生産できるようにしてきたことを読み取る活動を行う。
- 持続可能性に着目できるように、農業従事者の変化のグラフや米の生産量と消費量の変化のグラフから課題と課題解決の未来予測をして話し合う活動を設定する。

【比較・分類・関連・総合して考える】

- 「なぜ庄内平野では品質の良い米をたくさん生産できるのか」と問うことで、様々な人々の工夫や努力を関連付けたり、生産者と消費者を関連付けたりして理由を考え、話し合う活動を行う。
- 学んで獲得した知識、見方・考え方を発揮できるように、立場と根拠を明確にして議論する活動を行う。

子供が学びを振り返り、次の学びにいかす

子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価小単元全体をして、学習前、「つかむ」段階後、「まとめ」段階後、「いかす」段階後に「米づくり関心度メーター」で米づくりに対する自分の思いを振り返るようにする。

学習指導案の単元の構想図例

5 単元構想 (例)

【本小単元につながる児童の学習経験】

前小単元では食糧がどこから届くのか、食糧の種類や分布に着目して様々な食糧の産地調べを行っている。その中で、気候条件により米だけでなく野菜や果物などの食糧の産地が大きく変わることや輸入品にも日本の食糧の安定供給が支えられていることを理解している。本小単元では、米作りにおいても、気候などの自然条件が大きく影響することから、食糧の産地の自然条件に着目する学習から導入していきたいと考える。

【研究内容 1】 主体的に問いを追究する工夫

【問題意識を高める工夫】

- 山形産の米を食べていることから庄内米に関心を向け、生産量だけでなく食味ランキング特A米の種類の多さから問題意識を高める。
- 具体的な米作り農家を登場させることで農家が直面する課題や生産の努力や工夫に共感しながら追究できるようにする。

【見通しをもつ工夫】

- 学習問題の解決に向けて予想したことを生産の工程を調べて、練り直して学習計画を立て、より見通し確かな追究の見通しがもてるようにする。

【内容や方法を選択できる工夫】

- 教科書以外にも、資料を持参したり、タブレットPCのデジタル教科書を活用したり、インターネット検索して情報を集めたりなど調べ方を選択できるようにする。
- 学習形態も個人、ペア、グループなど選択できるようにする。
- 情報整理の仕方とも思考ツールなど個々で選択できるようにする。

【学びを振り返る工夫】

- 様々な方法で調べることについて、毎時間整理して、学習を振り返る時間を設定する。

【協働的に取り組む工夫】

- 様々な資料や方法で調べたことについて、友達と共有する時間を設け、調べたことの妥当性を確認しながら学習を進める。
- 農家の課題解決と発展を自分事として考えられるようなテーマ設定を工夫する。

【研究内容 3】

子供の学びを確かにする評価の工夫

子共の主体的な問題解決の側面から		社会生活の確かな理解の側面から	
過程	想定される「問い」	子供に働かせたい見方・考え方	見方・考え方を働かせる資料
つかむ	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野はどのようなところなのだろう。	← 自然条件に着目して →	・庄内平野の航空写真 ・土地利用図と雨温図
	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野ではどうして米づくりがさかんなのだろう。	← 米作りの工夫や努力に着目して →	・米の食味ランキング ・都道府県別米生産量 ・庄内米の出荷先地図
しらべる	<たににう> 農家の人々をだれがどのように支えているのだろう。	← 輸送に着目して →	・山形県米産地の地図 ・農家協同組合の取組 ・農家の話
	産された米はどのようにして私たちのものに届けられるのだろう。	← 価格や費用に着目して →	・カントリーエレベーター ・米の輸送地図 ・米づくり費用
まとめる	<特色や意味を考える問い> なぜ、庄内平野では、品質の良い米をたくさん生産し、販売することができるのだろう。	← 工夫や努力と自然環境や消費者のニーズを関連付けて →	米づくりに関わる人々は、 <u>自然条件や高い技術を生かし、生産性や品質を高めるよう努力したり、輸送方法や販売方法を工夫して良質な米を生産して消費地に届けたりするなど、食料生産を支えている</u>
	<社会に見られる課題をつかむ問い> 日本の米づくりにはどのような課題があるのだろう。	← 持続可能性に着目して →	・日本人の米の消費量 ・農業従事者数と平均年齢の推移 ・耕作放棄地の推移
つながる	<発展や関わり方を考える問い> 私たちはこれからも安全でおいしい米を食べ続けることができるのか。	← 生産者と消費者の立場を関連付けて考えて →	・JA 庄内みどりの方のオンライン動画

1

「問い」「見方・考え方」「資料」「知識」から
学習指導要領及び解説に基づいた
教材の分析結果

【本小単元で目指す子供像】

私はこれからも安全でおいしい米を食べ続けることができると思う。なぜなら、庄内平野の農家の人やJAの人たちは共同経営やスマート農業など農家の高齢化の課題を解決しようとしているし、雪若丸という新しい米の品種を開発し、消費者がニーズと農家の育てやすさの両方を実現していて、新しく農業に就く人も増えているからです。私たち消費者がもっと日本の国産のお米にもっと関心をもって食べていけば、きっと安全でおいしい米を食べ続けられると思います。JAの人の話を聞いてそうなってほしいと強く思いました。

【研究内容 2】 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

- 【位置や空間的な広がりから見る】
・米の生産地の土地や気候、輸送手段について着目できるように、地図や雨温図、写真資料、地図などで米づくりに必要な条件について調べる活動を行う。

- 【事象や人々の相互関係から見る】
・山形県の米作りが盛んな理由＝工夫や努力に着目できるように、食味ランキングや生産量から多さを資料で調べる活動を行う。
- ・米作りに関わる人々の協力関係に着目できるように、関係を図に整理して相互関係が見える化する活動を行う。

- 【時期や時間の経過から見る】
・技術の向上に着目できるように、昔と今の農作業の様子や時間を比較できる資料から効率よく生産できるようになってきたことを読み取る活動を行う。
- ・持続可能性に着目できるように、農業従事者の変化のグラフや米の生産量と消費量の変化のグラフから課題と課題解決の未来予測をして話し合う活動を設定する。

【比較・分類・関連・総合して考える】

- ・「なぜ庄内平野では品質の良い米をたくさん生産できるのか」と問うことで、様々な人々の工夫や努力を関連付けたり、生産者と消費者を関連付けたりして理由を考え、話し合う活動を行う。
- ・学んで獲得した知識、見方・考え方を発揮できるように、立場と根拠を明確にして議論する活動を行う。

子供が学びを振り返り、次の学びにいかす

子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価小単元全体をして、学習前、「つかむ」段階後、「まとめ」段階後、「いかす」段階後に「米づくり関心度メーター」で米づくりに対する自分の思いを振り返るようにする。

学習指導案の単元の構想図例

5 単元構想 (例)

【本小単元で目指す子供像】

2

既習や学習経験

な食糧の産地調べを行っている。大きく変わることを輸入品にも日本の米作りにおいても、気候などの自然条件を考慮していきたく考える。

【本小単元で目指す子供像】

私はこれからも安全でおいしい米を食べ続けることができると思う。なぜなら、庄内平野の農家の人やJAの人たちは共同経営やスマート農業など農家の高齢化の課題を解決しようとしているし、雪若丸という新しい米の品種を開発し、消費者がニーズと農家の育てやすさの両方を実現していて、新しく農業に就く人も増えているからです。私たち消費者がもっと日本の国産のお米にもっと関心をもって食べていけば、きっと安全でおいしい米を食べ続けられると思います。JAの人の話を聞いてそうなってほしいと強く思いました。

【研究内容1】 主体的に問いを追究する工夫

- 【問題意識を高める工夫】
 - 山形産の米を食べていることから庄内米に関心を向け、生産量だけでなく食味ランキング特A米の種類の多さから問題意識を高める。
 - 具体的な米作り農家を登場させることで農家が直面する課題や生産の努力や工夫に共感しながら追究できるようにする。
- 【見通しをもつ工夫】
 - 学習問題の解決に向けて予想したことを生産の工程を調べて、練り直して学習計画を立て、より見通し確かな追究の見通しがもてるようにする。
- 【内容や方法を選択できる工夫】
 - 教科書以外にも、資料を持参したり、タブレットPCのデジタル教科書を活用したり、インターネット検索して情報を集めたりなど調べ方を選択できるようにする。
 - 学習形態も個人、ペア、グループなど選択できるようにする。
 - 情報整理の仕方とも思考ツールなど個々で選択できるようにする。
- 【学びを振り返る工夫】
 - 様々な方法で調べることについて、毎時間整理して、学習を振り返る時間を設定する。
- 【協働的に取り組む工夫】
 - 様々な資料や方法で調べたことについて、友達と共有する時間を設け、調べたことの妥当性を確認しながら学習を進める。
 - 農家の課題解決と発展を自分事として考えられるようなテーマ設定を工夫する。

子供の主体的な問題解決の側面から		社会生活の確かな理解の側面から	
過程	想定される「問い」	子供に働かせたい見方・考え方	見方・考え方を働かせる資料
つかむ	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野はどのようなところなのだろう。	← 自然条件に着目して →	・庄内平野の航空写真 ・土地利用図と雨温図
	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野ではどうして米づくりがさかんなのだろう。	← 米作りの工夫や努力に着目して →	・米の食味ランキング ・都道府県別米生産量 ・庄内米の出荷先地図
しらべる	<農家の人々をだれがどのように支えているののだろう。>	← 輸送に着目して →	・農家協同組合の取組 ・農家の話
	<産された米はどのようにして私たちのものに届けられるののだろう。>	← 価格や費用に着目して →	・カントリーエレベーター ・米の輸送地図 ・米づくり費用
まとめる	<特色や意味を考える問い> なぜ、庄内平野では、品質の良い米をたくさん生産し、販売することができるのだろう。	← 工夫や努力と自然環境や消費者のニーズを関連付けて →	米づくりに関わる人々は、 <u>自然条件や高い技術を生かし、生産性や品質を高めるよう努力したり、輸送方法や販売方法を工夫して良質な米を生産して消費地に届けたりするなど、食料生産を支えている</u>
	<社会に見られる課題をつかむ問い> 日本の米づくりにはどのような課題があるのだろう。	← 持続可能性に着目して →	・日本人の米の消費量 ・農業従事者数と平均年齢の推移 ・耕作放棄地の推移
つながる	<発展や関わり方考える問い> 私たちはこれからも安全でおいしい米を食べ続けられることができるのか。	← 生産者と消費者の立場を関連付けて考えて →	・JA庄内みどりの方のオンライン動画

1

「問い」「見方・考え方」「資料」「知識」から 学習指導要領及び解説に基づいた 教材の分析結果

【研究内容2】 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

- 【位置や空間的な広がりから見る】
 - 米の生産地の土地や気候、輸送手段について着目できるように、地図や雨温図、写真資料、地図などで米づくりに必要な条件について調べる活動を行う。
- 【事象や人々の相互関係から見る】
 - 山形県の米作りが盛んな理由＝工夫や努力に着目できるように、食味ランキングや生産量から多さを資料で調べる活動を行う。
 - 米作りに関わる人々の協力関係に着目できるように、関係を図に整理して相互関係が見える化する活動を行う。
- 【時期や時間の経過から見る】
 - 技術の向上に着目できるように、昔と今の農作業の様子や時間を比較できる資料から効率よく生産できるようになってきたことを読み取る活動を行う。
 - 持続可能性に着目できるように、農業従事者の変化のグラフや米の生産量と消費量の変化のグラフから課題と課題解決の未来予測をして話し合う活動を設定する。
- 【比較・分類・関連・総合して考える】
 - 「なぜ庄内平野では品質の良い米をたくさん生産できるのか」と問うことで、様々な人々の工夫や努力を関連付けたり、生産者と消費者を関連付けたりして理由を考え、話し合う活動を行う。
 - 学んで獲得した知識、見方・考え方を発揮できるように、立場と根拠を明確にして議論する活動を行う。

【研究内容3】 子供の学びを確かにする評価の工夫

指導と評価の一体化を図る（教師が指導に生かす）評価
関係図を用いてまとめた農家と関係する人々の相互関係の学習前と学習後の2回作成して比較することで、米が、多くの人の工夫や努力によって生産されていることへの理解の変容を確かめられるようにする。

子供が学びを振り返り、次の学びにいかす
子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価小単元全体をして、学習前、「つかむ」段階後、「まとめ」段階後、「いかす」段階後に「米づくり関心度メーター」で米づくりに対する自分の思いを振り返るようにする。

学習指導案の単元の構想図例

5 単元構想 (例)

【本小単元で目指す子供像】

2 既習や学習経験

【研究内容1】 主体的に問いを追究する工夫

- 【問題意識を高める工夫】**
- 山形産の米を食べていることから庄内米に関心を向け、生産量だけでなく食味ランキング特A米の種類の多さから問題意識を高める。
 - 具体的な米作り農家を登場させることで農家が直面する課題や生産の努力や工夫に共感しながら追究できるようにする。
- 【見通しをもつ工夫】**
- 学習問題の解決に向けて予想したことを生産の工程を調べて、練り直して学習計画を立て、より見通し確かな追究の見通しがもてるようにする。
- 【内容や方法を選択できる工夫】**
- 教科書以外にも、資料を持参したり、タブレットPCのデジタル教科書を活用したり、インターネット検索して情報を集めたりなど調べ方を選択できるようにする。
 - 学習形態も個人、ペア、グループなど選択できるようにする。
 - 情報整理の仕方とも思考ツールなど個々で選択できるようにする。
- 【学びを振り返る工夫】**
- 様々な方法で調べることについて、毎時間整理して、学習を振り返る時間を設定する。
- 【協働的に取り組む工夫】**
- 様々な資料や方法で調べたことについて、友達と共有する時間を設け、調べたことの妥当性を確認しながら学習を進める。
 - 農家の課題解決と発展を自分事として考えられるようなテーマ設定を工夫する。

【研究内容3】 子供の学びを確かにする評価の工夫

関係図を用いてまとめた農家と関係する人々の相互関係の学習前と学習後の2回作成して比較することで、米が、多くの人の工夫や努力によって生産されていることへの理解の変容を確かめられるようにする。

子供の主体的な問題解決の側面から		社会生活の確かな理解の側面から	
過程	想定される「問い」	子供に働かせたい見方・考え方	見方・考え方を働かせる資料
つかむ	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野はどのようなところなのだろう。	← 自然条件に着目して →	・庄内平野の航空写真 ・土地利用図と雨温図
	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野ではどうして米づくりがさかんなのだろう。	← 米作りの工夫や努力に着目して →	・米の食味ランキング ・都道府県別米生産量 ・庄内米の出荷先地図
しらべる	<たににうみ> 農家の人々をだれがどのように支えているのだろう。	← 輸送に着目して →	・農家協同組合の取組 ・農家の話
	<たににうみ> 産された米はどのようにして私たちのものに届けられるのだろう。	← 価格や費用に着目して →	・カントリーエレベーター ・米の輸送地図 ・米づくり費用
まとめる	<特色や意味を考える問い> なぜ、庄内平野では、品質の良い米をたくさん生産し、販売することができるのだろう。	← 工夫や努力と自然環境や消費者のニーズを関連付けて →	米づくりに関わる人々は、 <u>自然条件や高い技術を生かし、生産性や品質を高めるよう努力したり、輸送方法や販売方法を工夫して良質な米を生産して消費地に届けたりするなど、食料生産を支えている</u>
	<社会に見られる課題をつかむ問い> 日本の米づくりにはどのような課題があるのだろう。	← 持続可能性に着目して →	・日本人の米の消費量 ・農業従事者数と平均年齢の推移 ・耕作放棄地の推移
つながる	<発展や関わり方を考える問い> 私たちはこれからも安全でおいしい米を食べ続けることができるのか。	← 生産者と消費者の立場を関連付けて考えて →	・JA庄内みどりの方のオンライン動画

1

「問い」「見方・考え方」「資料」「知識」から
学習指導要領及び解説に基づいた
教材の分析結果

3 小単元で目指す子供像

【本小単元で目指す子供像】
...野の農家の人やJAの雪若丸という新しい米...業に就く人も増えている...ば、きっと安全でおいしい米を食へ続けられると思います。JAの人の話を聞いてそうなるってほしいと強く思いました。

【研究内容2】 社会的な見方・考え方が働く学習活動の工夫

- 【位置や空間的な広がりから見る】**
- 米の生産地の土地や気候、輸送手段について着目できるように、地図や雨温図、写真資料、地図などで米づくりに必要な条件について調べる活動を行う。
- 【事象や人々の相互関係から見る】**
- 山形県の米作りが盛んな理由＝工夫や努力に着目できるように、食味ランキングや生産量から多さを資料で調べる活動を行う。
 - 米作りに関わる人々の協力関係に着目できるように、関係を図に整理して相互関係が見える化する活動を行う。
- 【時期や時間の経過から見る】**
- 技術の向上に着目できるように、昔と今の農作業の様子や時間を比較できる資料から効率よく生産できるようになってきたことを読み取る活動を行う。
 - 持続可能性に着目できるように、農業従事者の変化のグラフや米の生産量と消費量の変化のグラフから課題と課題解決の未来予測をして話し合う活動を設定する。
- 【比較・分類・関連・総合して考える】**
- 「なぜ庄内平野では品質の良い米をたくさん生産できるのか」と問うことで、様々な人々の工夫や努力を関連付けたり、生産者と消費者を関連付けたりして理由を考え、話し合う活動を行う。
 - 学んで獲得した知識、見方・考え方を発揮できるように、立場と根拠を明確にして議論する活動を行う。

社会生活の確かな理解の側面から

見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
・庄内平野の航空写真 ・土地利用図と雨温図	庄内平野は、水田に適した平地が広がり、雪解けの河の水も豊かで、夏の日照時間も長く、米作りに適している。
・米の食味ランキング ・都道府県別米生産量 ・庄内米の出荷先地図	山形県の米の生産量は国内有数であるばかりでなく、庄内平野では、毎年食味ランキングでA評価になるなどことからおいしい米が作られている。
・農家協同組合の取組 ・農家の話	試験場など農家を支える仕組みや協力関係の上で米作りが行われている。
・カントリーエレベーター ・米の輸送地図 ・米づくり費用	米はカントリーエレベーターで保存され、生産地から消費地まで交通網を通して輸送され、価格には様々な費用が含まれて販売されている。
・日本人の米の消費量 ・農業従事者数と平均年齢の推移 ・耕作放棄地の推移	日本では米の消費量が減り、兼従事者数が減少して高齢化が進み、耕作放棄地も増えているが、農業法人を作って農作業を共同化したり、スマート農業を進めたり、有機栽培に取り組むなどの工夫や努力をしている。
・JA庄内みどりの方のオンライン動画	JA山形でも、消費者のニーズに応え新しい取組を工夫して行い、消費者との関係を大切にして米づくりを続けていこうとしている。

子供が学びを振り返り、次の学びにいかす

子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価小単元全体をして、学習前、「つかむ」段階後、「まとめ」段階後、「いかす」段階後に「米づくり関心度メーター」で米づくりに対する自分の思いを振り返るようにする。

学習指導案の単元の構想図例

2

既習や学習経験

3

小単元で目指す子供像

1

「問い」「見方・考え方」「資料」「知識」から
学習指導要領及び解説に基づいた
教材の分析結果

4

研究内容1・研究内容2・研究内容3
に基づいた授業における手立て

4

4

5 単元構想 (例)
【本小単元で目指す子供像】
山形県産の米の産地調査を行っている。多くは輸入品にも日本の米よりも美味しく、気候などの自然条件も輸入していきたくと考える。

【本小単元で目指す子供像】
山形県産の米の産地調査を行っている。多くは輸入品にも日本の米よりも美味しく、気候などの自然条件も輸入していきたくと考える。山形県の農家の人やJAの雪若丸という新しい米に就く人も増えている。安全でおいしい米を食って続けられると思います。JAの人の話を聞いてそうなるってほしいと強く思いました。

【研究内容1】
主体的に問いを追究する工夫

【問題意識を高める工夫】
・山形産の米を食べていることから庄内米に関心を向け、生産量だけでなく食味ランキング特A米の種類の多さから問題意識を高める。
・具体的な米作り農家を登場させることで農家が直面する課題や生産の努力や工夫に共感しながら追究できるようにする。

【見通しをもつ工夫】
・学習問題の解決に向けて予想したことを生産の工程を調べて、練り直して学習計画を立て、より見通し確かな追究の見通しがもてるようにする。

【内容や方法を選択できる工夫】
・教科書以外にも、資料を持参したり、タブレットPCのデジタル教科書を活用したり、インターネット検索して情報を集めたりなど調べ方を選択できるようにする。
・学習形態も個人、ペア、グループなど選択できるようにする。
・情報整理の仕方とも思考ツールなど個々で選択できるようにする。

【学びを振り返る工夫】
・様々な方法で調べごとに毎時間整理して、学習の時間を設定する。

【協働的に取り組む工夫】
・様々な資料や調べ方について、友達と共有し、調べたことの妥当性ながら学習を進める。
・農家の課題解決と発展を促して考えられるような手立てを工夫する。

子供の主体的な問題解決の側面から		社会生活の確かな理解の側面から	
過程	想定される「問い」	子供に働かせたい見方・考え方	見方・考え方を働かせる資料
つかむ	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野はどのようなところなのだろう。	自然条件に着目して	・庄内平野の航空写真 ・土地利用図と雨温図
	<学習問題をつかむ問い> 庄内平野ではどうして米づくりがさかんなのだろう。	米作りの工夫や努力に着目して	・米の食味ランキング ・都道府県別米生産量 ・庄内米の出荷先地図
しらべる	<農家の人々をだれがどのように支えているのだろう。>	輸送に着目して	・農家協同組合の取組 ・農家の話
	<産された米はどのようにして私たちのものに届けられるのだろう。>	価格や費用に着目して	・カントリーエレベーター ・米の輸送地図 ・米づくり費用
ま	<特色や意味を考える問い>	工夫や努力	米づくりに関わる人々は、自然条件や高い技術を生かし、生産性を高める工夫を行っている。

社会生活の確かな理解の側面から	
見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
・庄内平野の航空写真 ・土地利用図と雨温図	庄内平野は、水田に適した平地が広がり、雪解けの河の水も豊かで、夏の日照時間も長く、米づくりに適している。
・米の食味ランキング ・都道府県別米生産量 ・庄内米の出荷先地図	山形県の米の生産量は国内有数であるばかりでなく、庄内平野では、毎年食味ランキングでA評価になるなどことからおいしい米が作られている。
・農家協同組合の取組 ・農家の話	試験場など農家を支える仕組みや協力関係の上で米作りが行われている。
・カントリーエレベーター ・米の輸送地図 ・米づくり費用	米はカントリーエレベーターで保存され、生産地から消費地まで交通網を通して輸送され、価格には様々な費用が含まれて販売されている。
	米づくりに関わる人々は、自然条件や高い技術を生かし、生産性を高める工夫を行っている。

【研究内容2】
社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

【位置や空間的な広がりから見る】
・米の生産地の土地や気候、輸送手段について着目できるように、地図や雨温図、写真資料、地図などで米づくりに必要な条件について調べる活動を行う。

【事象や人々の相互関係から見る】
・山形県の米作りが盛んな理由＝工夫や努力に着目できるように、食味ランキングや生産量から多さを資料で調べる活動を行う。
・米づくりに関わる人々の協力関係に着目できるように、関係を図に整理して相互関係が見える化する活動を行う。

【時期や時間の経過から見る】
・技術の向上に着目できるように、昔と今の農作業の様子や時間を比較できる資料から効率よく生産できるようになってきたことを読み取る活動を行う。
・持続可能性に着目できるように、農業従事者の変化のグラフや米の生産量と消費量の変化のグラフから課題と課題解決の未来予測をして話し合う活動を設定する。

【分類・関連・総合して考える】
・庄内平野では品質の良い米を生産しているのか」と問うことや、農産者と消費者を関連させて理由を考え、話し合う活動を行う。
・獲得した知識、見方・考え方を活用できるように、立場と根拠を踏まえて議論する活動を行う。

【研究内容3】
子供の学びを確かめるための評価の工夫

指導と評価の一体化を図る（教師が指導に生かす）評価
関係図を用いてまとめた農家と関係する人々の相互関係の学習前と学習後の2段階で比較することで、米が、多くの人の工夫や努力によって生産されていること、その理解の変容を確かめられるようにする。

子供が学びを振り返り、次の学びにいかす
子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価小単元全体をして、学習前、「つかむ」段階後、「しらべる」段階後、「わかす」段階後に「米づくり関心度メーター」で米づくりに対する自分の思いを振り返るようにする。

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

理論委員会

- 問題意識や追究意欲が高まる教材
- 社会とのつながりを実感できる教材
- 人の働きを共感的に捉えられる教材
- 東京らしい教材
- 見方・考え方を働かせる教材

①主体的に問いを追究する工夫

②見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

③子供の学びを確認にする評価の工夫

研究推進委員全体会

3年部会
研究推進委員

4年部会
研究推進委員

5年部会
研究推進委員

6年部会
研究推進委員

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせて、
主体的に問いを追究する学習～

都小社研の授業づくり
ガイドブック



(令和3年8月18日現在)

＜都小社研の授業づくりのポイント＞
～その内容と事例紹介～

見方・考え方を働かせる指導の工夫

学習問題を主体的に追究する授業

「つながる」段階の授業づくり

3観点による評価方法の在り方

令和3年度東京都小学校社会科研究会の研究

ご清聴ありがとうございました。

本日の全体会の資料は都小社研のホームページ掲載しますのでご活用ください。

OBの先生方の研究へのご指導
役員校長・研推推進委員の先生方のご協力をお願いします。

令和3年度の研究発表会は
2月18日（金）忍岡小学校で開催予定